

日本コミュニケーション学会 (CAJ)

～2012年度 中部支部大会プログラム～

日時：2012年12月8日(土) 13:00-19:40

場所：愛知淑徳大学 星が丘キャンパス (地下鉄東山線「名古屋」駅より19分、
「星ヶ丘」駅にて下車、3番出口を左折、徒歩3分。)

教室：13A (1号館3階、エスカレーター降りて、左折、直進。掲示しておきます。)

会費：無料

13:00-13:05 開会式

13:05-13:55 セッション1：実践報告

タイトル：アウトリーチ活動としての異文化コミュニケーション教育—一般社団法人海外事業
支援センター名古屋を事例にして—

講演者：佐藤 良子 先生 (愛知淑徳大学)

内容紹介：このセッションでは一般社団法人海外事業支援センター名古屋(以下 OBAC 名古屋と省略)による企業向け「グローバル人材育成プログラム」を事例にアウトリーチ活動としての異文化コミュニケーション教育の試みを報告する。また、OBAC 名古屋を運営する理事会へのインタビュー調査や研修後アンケートから企業で求められる異文化コミュニケーション教育とは何かについて考察する。

(休憩 15分)

14:10-14:50 セッション2：院生 研究 発表

タイトル：ワールド・ミュージックとしての「君が代」

発表者：渡辺 友穂 (静岡県立大学 大学院 国際関係学研究科)

内容紹介：「君が代」問題というと、いつも教育や政治をめぐって「右」と「左」が「君が代」の意味を主張し合うような対立になってしまいます。本研究では、「君が代」が音楽であり歌われるものである、という視点から論争を考え直し、ワールド・ミュージックとして「君が代」を位置づけることを試みます。

(休憩 15分)

15:05-15:55 セッション3：博士論文 発表

タイトル：Becoming a functioning member of the collegiate culture: how cellphone communication affects first-year college students' self and identity in

college transition

発表者 : 宮崎 新 先生 (名古屋外国語大学)

内容紹介 : 本研究はアメリカ人大学一年生の高校生活から大学入学への移行、そして初年度における携帯電話による大義のコミュニケーション行動が学生らの「自身」の捉え方にどのような影響を及ぼすかをエソノグラフィ的手法を用いて考察した。

(提出先 : Wayne State University, USA)

(休憩 15分)

16 : 10-17 : 00 セッション4 : 博士論文発表

タイトル : ソーシャルサポート要請の日米比較—家族コミュニケーションパターンとの関連—

報告者 : 森泉 哲 先生 (南山大学)

内容紹介 : 対人コミュニケーションの比較文化研究では、国単位の文化と個人変数のみが扱われ、文化=国でよいのかという批判がありました。そこで本発表では、家族という文化を導入し、家族コミュニケーションパターンとサポート要請の諸側面(誰に対して、どの程度、どのようにサポートを求めるのか)との関連について日米両国の大学生を対象に行った研究結果を報告したいと思います。

(提出先 : University of New Mexico, USA)

17 : 00-17 : 20 閉会式

・今後の活動について意見交換

Reminder :

1) 書評締切 : 1月下旬 (受付 : 藤巻先生)

2) CAJ 年次大会 (個人発表・パネル) 申込み期限 : 2月20日 (水)

・閉会の挨拶

(移動)

17 : 40-19 : 40 頃迄 懇親会・今後の支部活動について意見交換 (続)

会場 : なごみ白木屋 星ヶ丘駅前店

<http://r.gnavi.co.jp/n862434/menu1.html>